

岩国行動 2012 女たちの宣言

岩国基地は、米軍再編計画によって、いまやアジア太平洋地域最大規模の米軍基地となっています。

騒音・墜落が心配されるために、基地被害の軽減と称して、滑走路の沖合移設が行われ、その埋め立てのために愛宕山が削られました。しかし、蓋を開けてみれば、厚木から空母艦載機 59 機が移転する計画が立てられ、水深 13m になった岸壁には大型輸送船が入港してオスプレイを搬入するなど、基地が拡大され機能が強化されるという結果となりました。騒音軽減が真っ赤なウソであるばかりでなく、オスプレイの訓練が強行されれば、墜落の危険はむしろ大きくなります。愛宕山跡地では、岩国市の活性化のために開発事業に協力してきた方々を裏切り、岩国市民のためではなく、米軍のための住宅建設が押し進められようとしています。

2006 年岩国市民は住民投票によってはっきりと、米軍基地機能強化を拒否する意思を示しました。しかし、政府は、市庁舎建設の補助金カットなどの経済的な締め付けによって、市民の声を押し殺し、強引に計画を進めてきました。

今年の 7 月 23 日には、反対の声を押し切って、オスプレイの強行搬入がなされました。このオスプレイは、アメリカ国内では環境問題や騒音を理由に訓練を取りやめているのにもかかわらず、日本国内では 7 ルートの低空飛行訓練を計画し、日本中を危機に晒しています。岩国にも定期的に飛来し、低空飛行訓練の拠点として位置づけられています。

10 月にオスプレイの配備が強行された沖縄では、まさに島ぐるみの配備反対闘争がたたかわれてきました。普天間基地のゲートが市民によって封鎖され、配備反対の県民大会には 10 万人もの人々が集まりました。このような人々の怒りと反対の意志を無視する形で、オスプレイ配備は強行され、沖縄の人々にさらなる命の危険と不安をもたらしています。さらに来年には、もう 12 機が来るというのです。

オスプレイは、私たち市民の暮らしを脅かすだけではありません。オスプレイは、戦場で、人を殺すためのものです。私たちは、これ以上、戦争、人殺しに加担したくありません。

岩国基地の周辺の住民はすでにこれまでおびたしい数の事件・事故に苦しめられてきました。1998 年から 2008 年の 10 年間で、100 件近い刑法犯罪が起きています。これ以外にも、性的暴力の被害届を出すことを断念したケース、日米地位協定に阻まれ捜査も行われなかったケースなど、更に多くの慟哭があることでしょう。

去る 10 月 16 日、沖縄県でまたしても、米兵による女性に対する性暴力事件が発生しました。私たちは、加害者米兵に対して、非常に強い憤りをおぼえています。同時に、「また、起こさせてしまった。」という、忸怩たる思いがあります。被害者の女性がどんなに恐ろしい思いをされたのかと考えると、本当に辛いことです。

この事件が起こった時、私たちは、2007 年 10 月 14 日の広島事件を思い出さずにはいられません。一人の女性が岩国基地所属の米兵らに暴行を受け、県知事に侮辱され、軍事法廷の場でさらに傷つけられたあの事件から、5 年と 2 日後に起こった出来事だったからです。日本の警察が、被害者の人権に配慮した捜査を行い、日本の司法でもって性的暴力を裁き、加害者に罪を償わせることが、本当に必要なのです。

私たちは、これまでも、軍事基地による女性に対する暴力と搾取の事実を目の当たりにし、これに対して弾劾の声を挙げてきました。岩国でも、沖縄でも、神奈川でも、米軍基地のあるところ、女性への性暴力は絶えません。これまで、多くの女性たちが米兵によって傷つけられてきました。女性に対する性暴力は隠され、多くの被害女性が沈黙を強いられています。世界各地の基地においても同様であり、被害は今も繰り返されています。私たちは、これらひとりひとりの女性たちの痛みを、決して忘れません。

このような、米兵による犯罪は、形ばかりの「綱紀粛正」では、無くすことはできません。なぜなら、戦争は女性への差別と搾取を究極的に推し進めるものであり、軍事基地は、不断にそして構造的に女性への暴力を含んでいるものだからです。軍事基地は、私たちの安全・安心な暮らしには相容れないものです。

現在、いわゆる「領土問題」をテコにしてナショナリズムが煽られ、露骨な差別・排外主義が蔓延している中で、日本軍性奴隷制度の被害女性に対する誹謗中傷が声高に叫ばれています。彼女たちは、「性暴力は不処罰の連鎖を断ち切らなければ再び繰り返される」ことを明らかにし、女性への性暴力が重大な人権侵害であり、正義と尊厳を回復するため、そして二度と再び被害が繰り返されないために、厳正な裁きと処罰を求めて今も闘い続けています。

被害女性に対する誹謗中傷は、その被害の責任を全て女性に押し付けることで、女性への差別と暴力と搾取を容認し、助長するものに他なりません。被害女性を貶め、沈黙を強いるこの社会こそが新たな女性への性暴力を生み出しているのです。日本軍性奴隷制度のサバイバーの闘いによって勝ちとられてきた地平を後退させてはなりません。

昨年3月11日の東日本大震災を引き金にして起こった福島第一原発の事故以来、「子どもたちを守りたい」「子どもに安心して暮らせる未来を残したい」という願いから、子どもをもつお母さんたちを中心に多くの女性たちが反原発の声をあげ、行動を起こしています。同様に、沖縄・岩国・神奈川などの基地を抱える各地でも女性たちが自分たちの人権と安心して暮らす権利を求めて闘い続けています。

女性にとってますます生きづらい社会になりつつある今だからこそ、戦争と基地、そして日本において基地や軍隊の存在を正当化する日米安保・日米地位協定、原発、排外主義などの、これら、女性差別を拡大させ、私たちの人権や生存権を脅かすあらゆるものに、私たちは反対し、これらをなくすその日まで、声をあげつづけます。

2012年11月24日

岩国行動2012 女性参加者一同